

3 - 24 長野県西部地震 (1984) 震央周辺での α トラック法による
ラドン濃度の定期観測結果

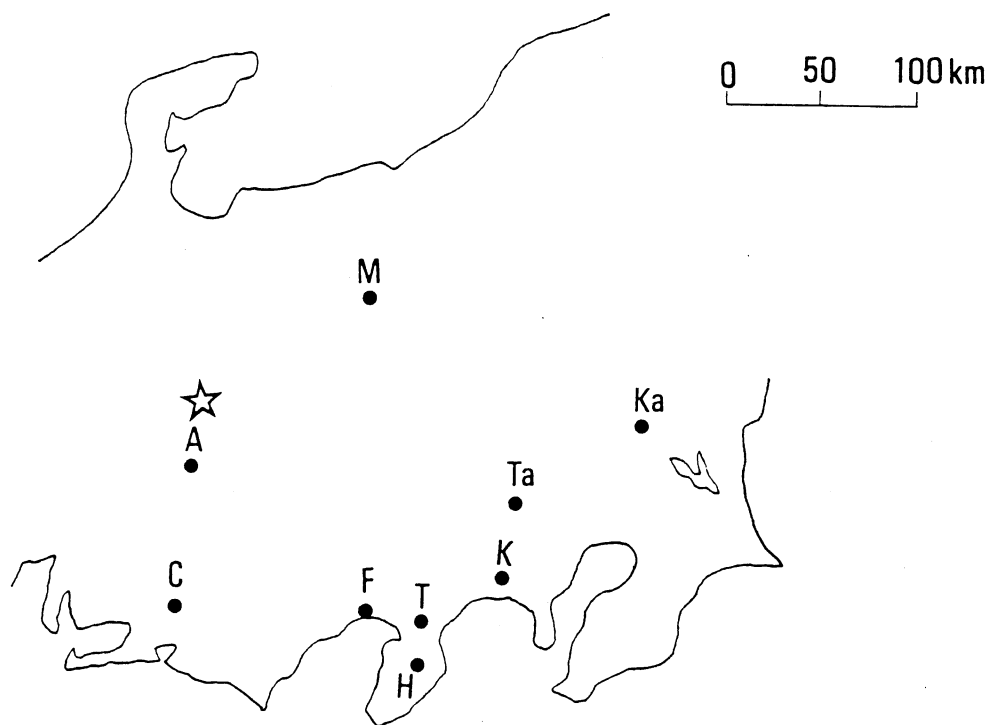
Weekly Observation of Radon Activity on the Atera and Matsushiro Faults and
Median Tectonic Line (Shinshiro) Using Track Etch Method near the Epicenter of
the Western Nagano Prefecture Earthquake, 1984

地質調査所
Geological Survey of Japan

地質調査所では観測強化地域及び特定観測地域の活断層を対象として、 α トラック法による一週間毎のラドン濃度の定期観測を行っている(第1図)。長野県西部地震の震源地に近く、地震前からラドン濃度変化があった岐阜県福岡町宮脇の阿寺断層(震央距離25 km)、長野県松代町天王山の松代F₄断層(震央距離100 km)及び愛知県新城市有海の中央構造線(震央距離100 km)上のラドン濃度の1週間毎の観測結果と5週間の移動平均を第2図に示した。

この図から、ラドン濃度(トラック密度)は夏季に高く、冬季に低い傾向が認められる。松代断層では1982年夏季から、阿寺断層及び中央構造線では1983年春頃から夏季のピーク値が高くなると共に全体のレベルが増加していることが認められる。

(加藤 完)

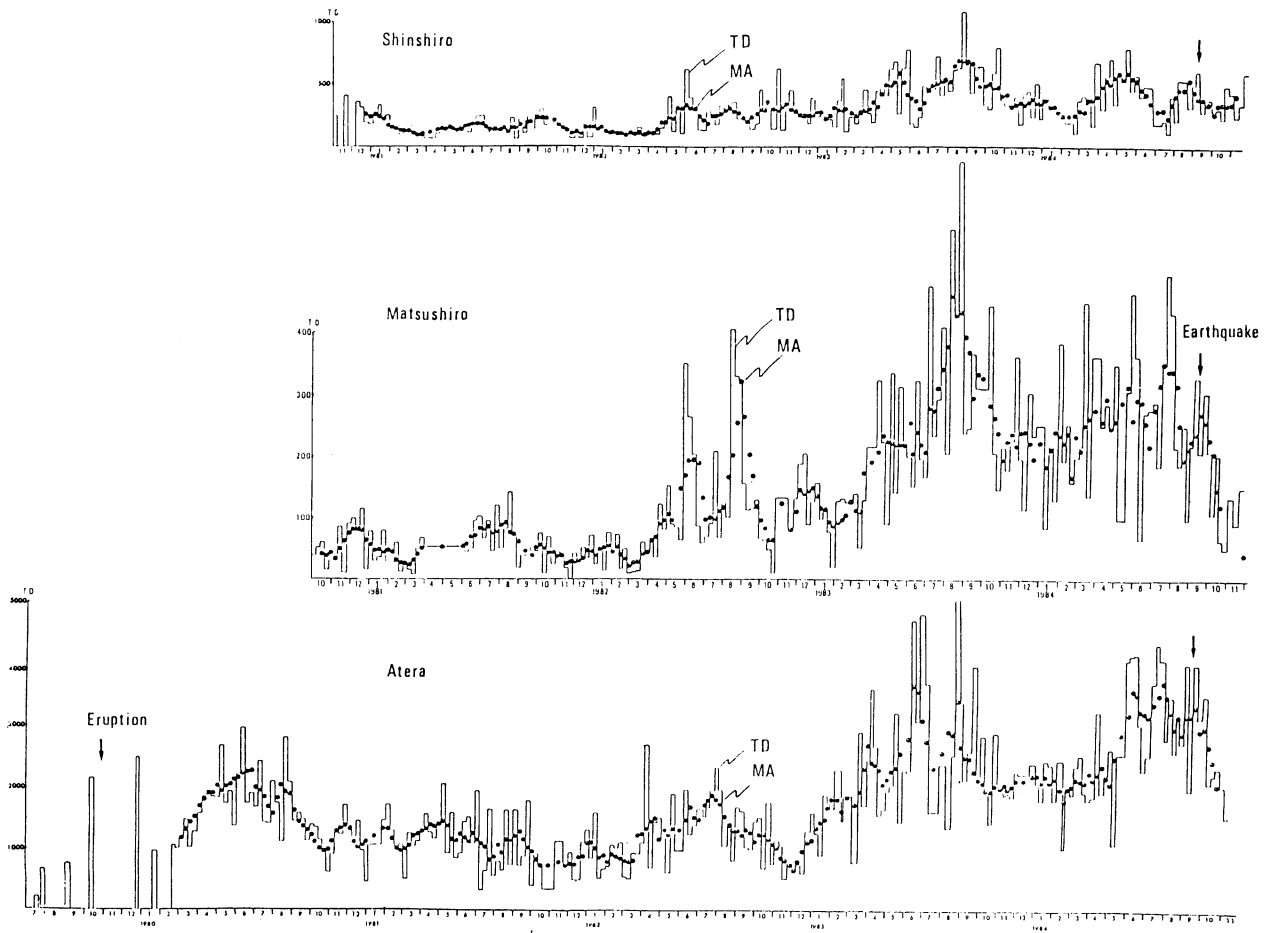


記号	断層名	観測点名
A	阿寺断層	岐阜県福岡町宮脇
C	中央構造線	愛知県新城市有海
F	富士川断層	静岡県蒲原町富士川河川敷
H	姫ノ湯断層	静岡県中伊豆町姫ノ湯
K	国府津－松田断層	神奈川県大井町相互台
Ka	烏山－菅生沼断層	茨城県関城町稻荷
M	松代断層	長野県松代町天王山
T	丹那断層	静岡県函南町畑
Ta	立川断層	東京都瑞穂町箱根ヶ崎

☆：長野県西部地震震央

第1図 ラドン濃度定期観測点位置図

Fig. 1 Location of weekly observation of radon activity.



第2図 新城，松代，阿寺観測点のトラック密度の平均値と5週間の移動平均値

TD：トラック密度，MA：移動平均

Fig. 2 Temporal changes in the track density and five weeks moving average of Shinshiro, Matsushiro and Atera observation sites.

TD: Track density.

MA: Moving average.